

国立大学イノベーション 創出環境強化事業 (令和2年度採択) フォローアップ調書

法人名：国立大学法人九州工業大学
令和4年7月

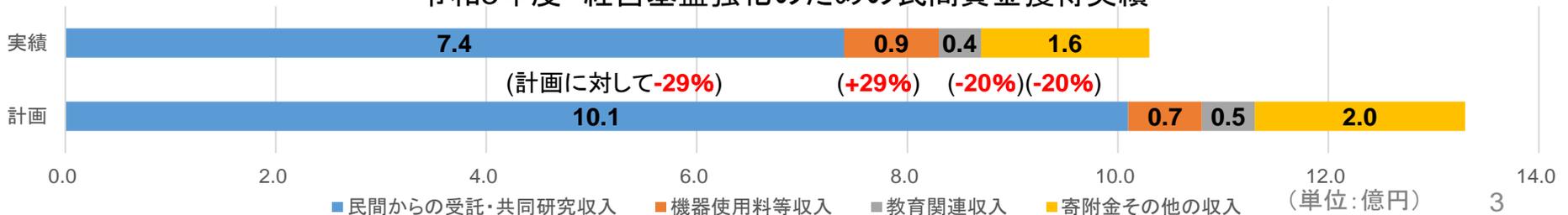
目次:

1. 民間資金獲得状況
2. 取組の進捗状況
3. 交付金の活用状況
4. 大学収入の状況
5. その他

<令和3年度の計画と実績>

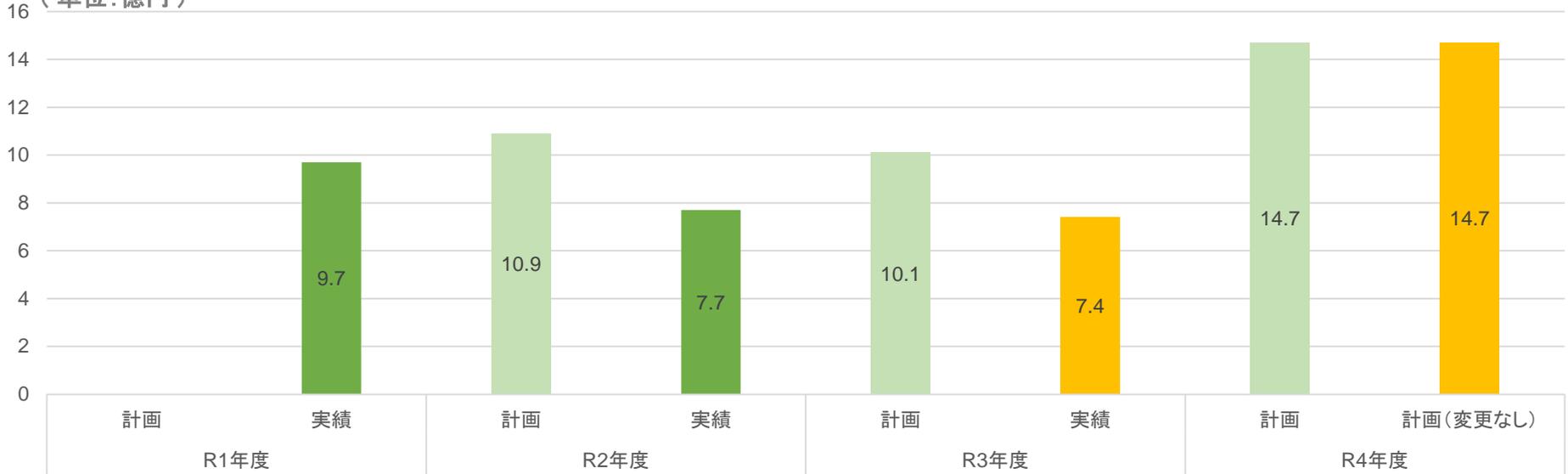
費目	計画 (単位:億円)	実績 (単位:億円)	備考
民間からの受託・共同研究収入※	<12.8> 10.1	7.4	
機器使用料等収入※	<0.8> 0.7	0.9	
教育関連収入※	0.5	0.4	
寄附金その他収入※	2.0	1.6	
民間資金獲得額(全体)	<16.1> 13.3	10.3	
「民間からの受託研究・共同研究収入」 について	計画 (単位:億円)	実績 (単位:億円)	備考
総額	<12.8> 10.1	7.4	
直接経費	8.1	5.8	
間接経費	2.0	1.6	

令和3年度 経営基盤強化のための民間資金獲得実績



民間からの受託・共同研究収入

(単位:億円)

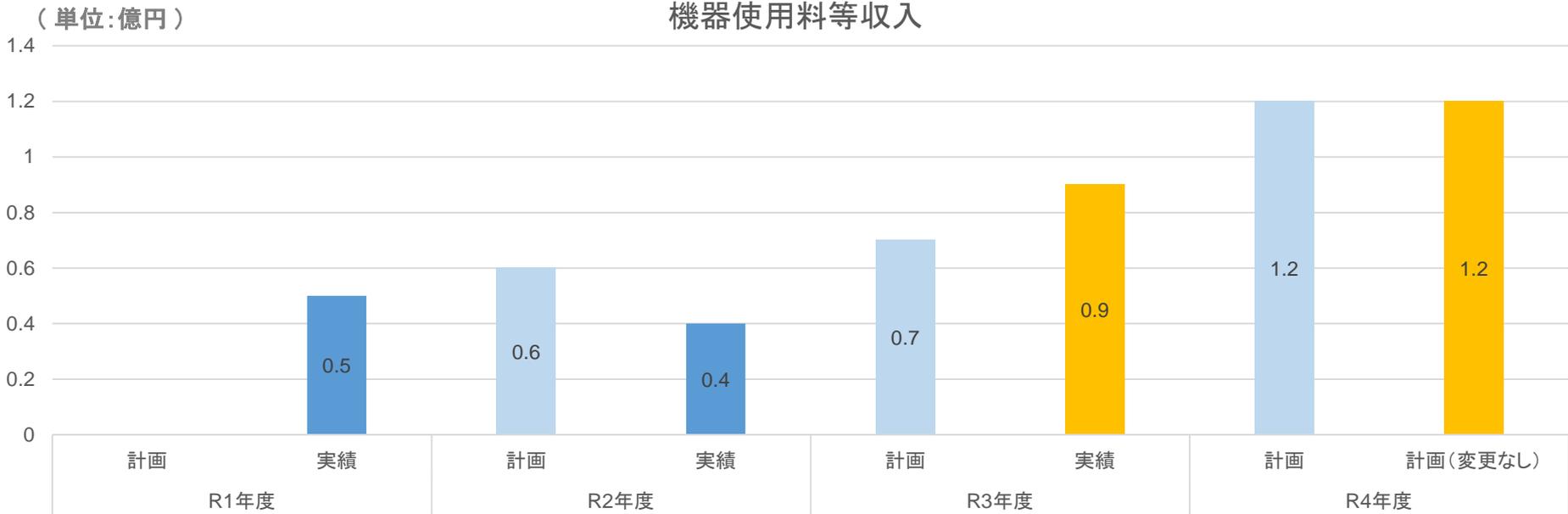


状況の分析

R3年度途中に終了した共同研究講座が2件あり、後継の共同研究講座を設置できなかったことに加え、受託・共同研究1件当たりの予算額が減少したことが要因である。R2年度に236件、736百万円を獲得していた共同研究は、R3年度には231件、665百万円となり、件数は5件(2.1%)の減少に留まるものの、契約金額については71百万円(9.6%)の減少となっている。一方で、大型の国プロジェクトの採択金額は一昨年度に引き続き順調に増加していることから(R2年度:149件・641百万円、R3年度134件796百万円)、本学の研究については高い需要があることは疑いようがなく、「組織」対「組織」の大型契約をいかに増加させていくかが本年度以降の課題である。

計画変更について

本事業の財政的な支援により、地域や産業界と協働するための環境整備が完了し、利用者数も順調に増加していることから、複数件の大型の共同研究契約が見込む。また、海外渡航が正常化することで衛星開発、プロジェクトの増加が見込めることから昨年変更した計画は変更しない。



状況の分析

R2年度においては、新型コロナウイルスの影響により対面での打ち合わせや施設内での試作品の確認などが不可能となり、1件当たりの試作に想定以上に時間を要することとなった。この結果、年間の受託件数が想定を下回ることとなり、当初の計画どおりの収入を得ることが出来なかった。

このため、設備更新・ネットワークの整備により機器使用の遠隔化・自動化を可能としたところ、R3年度は試作件数が増加されたことに加え、主に国内の大手半導体製造メーカーを対象とした遠隔セミナーの受講者数が予想以上の伸びとなったことから、変更後の計画と比べて+0.2億の増収となった。

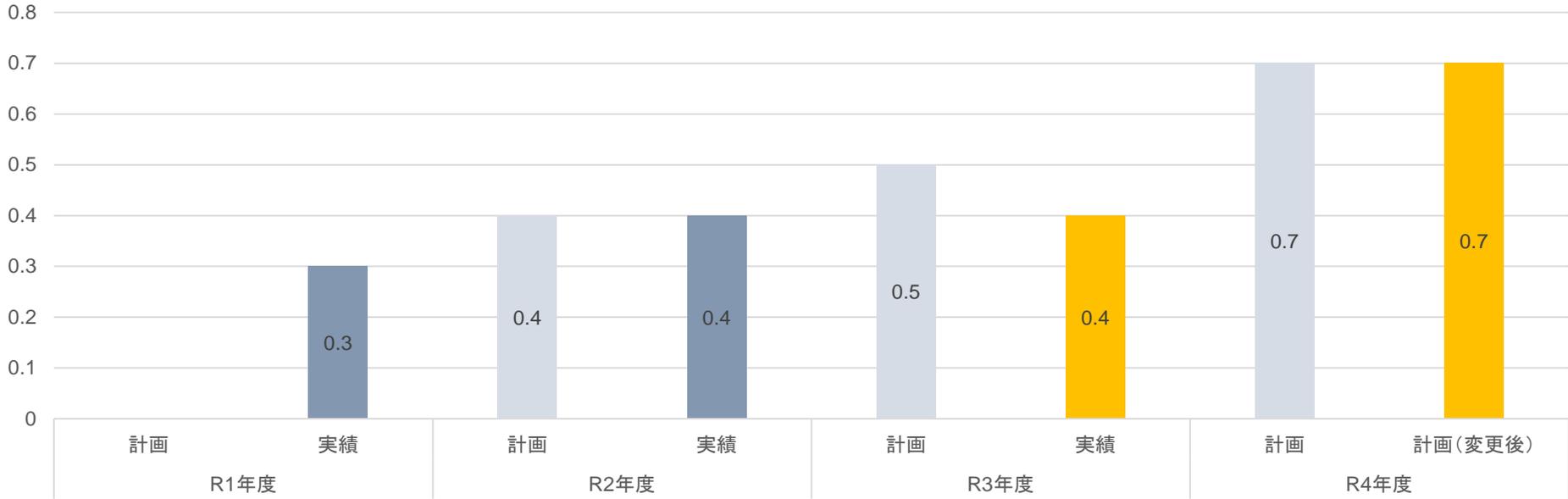
計画変更について

R4年度の計画変更は行わない。



教育関連収入

(単位:億円)

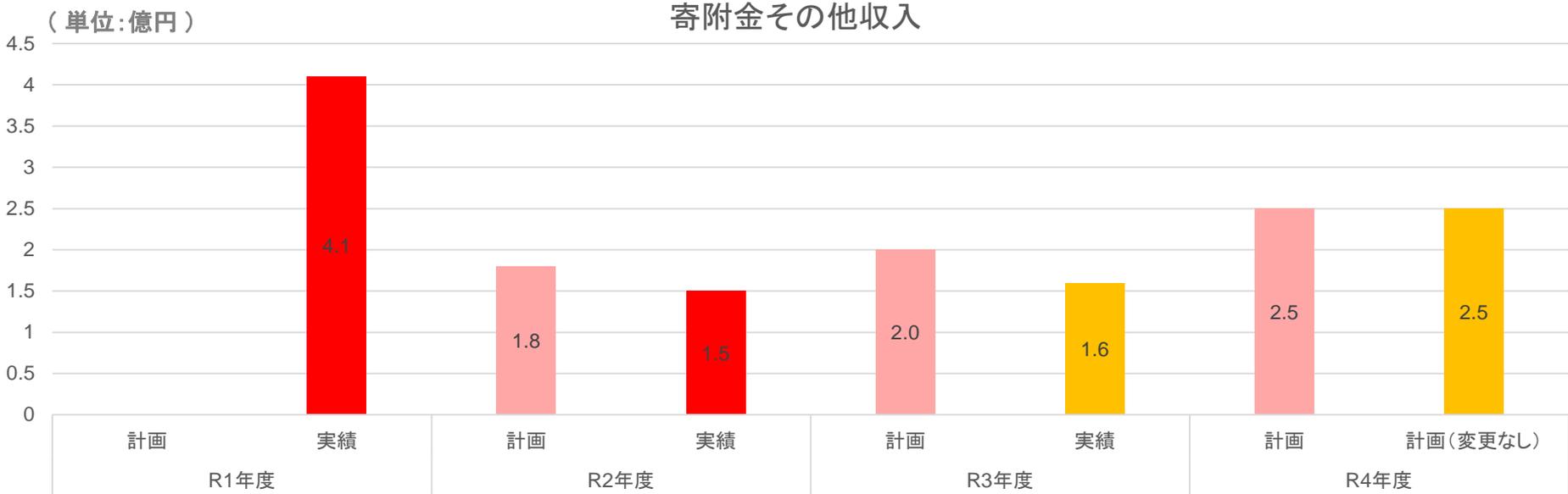


状況の分析

令和3年度の合同企業説明会の参加企業数が減少したことが要因である。新型コロナウイルスの蔓延防止のため、令和2年度より合同企業説明会をオンライン型で実施しているものの、会社の雰囲気伝えることが難しいことに難色を示す企業もあり、また長引くコロナ禍で新規採用を見送る企業もあったことで、参加企業数が減少したと分析している。もっとも計画未達額はわずかであり、令和4年度卒の採用では今後の経済正常化を見据え新規採用を再開する企業が多数に及ぶこと、またオンライン型では社員の出張を伴わずに説明会を開催できるなどのメリットも多々あるため、参加企業数の大幅な減少は見込んでおらず、変更後の収入計画の達成は可能と判断している。

計画変更について

R4年度の計画変更は行わない。



状況の分析

新型コロナウイルスの影響により企業への訪問による募金活動が難しかったことに加えて、寄附企業においても業績悪化に伴う寄附金額の縮小や打ち切りなどが、計画立案時以上の幅であったことから、R2年度実績が想定よりも0.3億円下回る結果となった。この新型コロナウイルスによる影響が予想以上に長期的なものとなっており、R3年度においてはR2年度の実績額を上回ったものの、計画通りの収入を得ることが叶わなかった。もっとも、R4年度には企業との対面での打ち合わせも増加傾向にあり、学長交代に伴う就任挨拶のための企業訪問などは予定通りに進んでいるほか、北九州市と企業版のふるさと納税プログラムを実装することを企画するなど、変更後の計画通りの収入を得ることは可能と判断している。

計画変更について

R4年度の計画変更は行わない。

<取組概要>

取組	令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価	内容
【取組①】 産学連携拡張のための環境整備	○	○	オープンイノベーション推進機構の発足 未来思考キャンパス (無人店舗、Beyond5G、環境エネルギーハウス) 戸畑キャンパスに産学共創拠点を整備
【取組②】 新たな包括的共同研究スキームの確立	◎	○	ニーズシーズマッチング支援システムの開発 (R4年度に運用を開始) 社会連携講座制度の導入
【取組③】 「ものづくり」する産学連携の発展	○	○	半導体、MEMSの一貫製造において遠隔試作環境を整備 遠隔セミナーの立ち上げ BIRDS-5プロジェクトによる超小型衛星の開発 非宇宙企業と人工衛星の設計等に関する共同研究開始
【取組④】 教育活動に関連する産学協働の促進	○	○	長崎大学との協定締結 オンライン合同企業説明会の開催 インターンシップ型アルバイトの実施
【取組⑤】 寄附金その他収入増加に向けた取組	○	○	市内大学支援寄附金の設置 九州工業大学産学官連携推進会の創設

【取組①】産学連携拡張のための環境整備

令和2、3年度の取組

- ・産学共創による教育研究活動を一層促進するためのイノベーション・commons拠点として、旧体育館を改修(名称:GYMLABO(参考資料1))。
- ・同施設の運営方針や収支計画については業務委託により、専門的な意見を基に運用を開始。
- ・令和2年度に産学連携に通じたマネジメント人材を副機構長として、学内の研究支援から産学連携までワンストップで対応する「**オープンイノベーション推進機構**」を発足。
- ・令和元年6月から運用を開始している無人店舗(con-tech)のリニューアル(店舗面積を4倍、商品数を1.5倍)や九州初の取組としてローカル5Gの無線局免許の取得、環境エネルギーハウスの整備などキャンパス内に最先端の「**未来環境**」を構築。

令和4年度以降の取組

- ・GYMLABO、ポルト棟(後述)を拠点に、学生・企業・地域の交わりを創出し、学生プロジェクト等、**学生起点の産学官連携拡大**を目指す。
- ・令和4年度にはオープンイノベーション推進機構を「**先端研究・社会連携本部**」として更に発展させ、産学連携に関するマネジメントを網羅的に担うほか、若手研究者の連携支援や特色ある分野での拠点形成を行う。
- ・共同研究直接経費へ研究者人件費を計上することにより、共同研究に係る大学負担の軽減と研究者へのインセンティブ付与を両立させる制度を導入。

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価
○	○



GYMLABO

【取組②】新たな包括的共同研究スキームの確立

令和2、3年度の取組

ニーズ・シーズマッチングシステムの開発

- ・第一フェーズの開発では、実際に行われた技術相談や共同研究を題材に、質問や研究テーマから、担当した研究者を探し当てるAIを開発。正解率70%を目標として開発を進め、最終的に**正解率85%を達成**(R3.7)。
- ・第二フェーズの開発として、AIに学習させている論文を日本語論文のみから英語論文も学習させたほか、協定を結んでいる国立大学(4大学)からの研究者データについても提供いただくことで、企業が使用する言葉で問いを発すると、ニーズにマッチしたシーズ情報と研究者情報が瞬時に提供されるシステムを構築した。(参考資料2)

社会連携講座制度の導入

2022年2月に民間外部機関との連携のもと教育研究を通じて、多様化する社会的ニーズに対応した人材育成等を行うための拠点を設置し、学内での教育研究をより活性化させ、学術の推進及び社会の発展に寄与することを目的とする「**社会連携講座制度**」を制定。

令和4年度以降の取組

- ・2022年7月より、北九州市ロボット・DX推進センター(北九州市若松区)と連携し、新たな地域貢献として**AIニーズシーズマッチング支援システムの導入を開始**。AIにより企業秘密を保持しながら、最適な大学研究者の提案を行うことで、民間からの受託・共同研究費の大幅な増加を見込んでいる。
- ・2022年4月に新設の社会連携講座として、北九州産業学術推進機構による「**半導体産業イノベーション推進連携講座**」を設置。
- ・引き続き、持続的かつ拡散的な**組織対組織の関係を継続**し、他企業への水平展開を目指すほか、教育・社会連携活動にも活動の幅を広げる。

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価



北九州市ロボット・DX推進センター

探索例①

探索結果

ニュースなどの文章

入力した文章

自動で抽出されたキーワード(4件)

関連論文(スコア)から順に10人を表示

ニュースの内容についてのコメントータを探し、関係しそうな研究者を大学横断的に探索することが可能(この例の場合、土工学系の研究者)

【取組③】「ものづくり」する産学連携の発展

令和2、3年度の取組

- ・半導体製造においては、遠隔試作環境を整備し耐コロナ禍の研究基盤環境を構築したことで、外部からの委託件数が増加。装置利用・代理操作料による収入は2019年度に比べて2.5倍の増加となった。
- ・遠隔セミナーを立ち上げ、企業内の研修プログラムとしての活用が開始されたことで講習料収入も20,000千円(2021年度、前年度比+13,000千円)と大幅に増加している。
- ・超小型衛星を通じて宇宙ビジネスへの新規参入を図る企業と設計等に関する共同研究を開始。
- ・宇宙新興国から資金提供を受けて超小型衛星を共同開発するBIRDS-5プロジェクトを開始。
- ・地域を中心とした産業界によりいっそう九州工業大学の知的資源等を積極的に活用してもらうことで、イノベーションの創出を目指すため、技術交流会を発展し、「九州工業大学産学官連携推進会」を新たに創設

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価
○	○



令和4年度以降の取組

- ・半導体製造、遠隔セミナーにおいては広報活動の強化により、長期的な収入の拡大増加をはかり、センターの独立採算化の実現を目指す。
- ・BIRDS-5プロジェクトで開発した3機の衛星の完成披露会を開催。この衛星は2022年10月の打ち上げに向けて、JAXAに引き渡しを予定している。
- ・北九州市学術研究都市との連携により、拠点機能を拡大。
- ・宇宙ベンチャー企業との包括協定を締結。共同研究講座を視野に入れ連携を強化に取り組んでいる。



BIRDS-5の3機の衛星

【取組④】教育活動に関連する産学協働の促進

令和2、3年度の取組

- ・長崎大学との「**教育研究の連携・協力の推進に関する協定**」を締結し、相互の教育研究の効果を高めるばかりでなく、未来の社会発展を担う人材を輩出することで、産業界に活力を与えることに寄与。
- ・令和元年度は開催を見送ることとなった学内合同企業説明会をオンラインで開催。令和2年度は**688社**、令和3年度は**524社**の企業や官公庁の方々に参加頂き、参加学生はそれぞれ延べ**8,200人**、**5,518人**を超えたことに加え、長崎大学の工学系の学生も参加。
- ・インターンシップ型アルバイトを開始し、2020年度に21社、2021年度に16社から求人情報を提供いただいた。「**学生教育**」、「**企業との連携**」に力を入れている大学と、「**学生採用**」、「**大学との連携**」を期待する企業のニーズをマッチングさせる新しい産学連携の取組として実施し、延べ50名が採用されている。

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価
○	○



長崎大学との協定締結式
(於：九州経済連合会事務局)

令和4年度以降の取組

- ・昨年度まで取り組んでいたインターンシップ型アルバイトを、有給インターンシップ制度として新たに取組を開始。キャリアカウンセラーが学生をマッチングすることで、これまで以上に企業と大学の連携を強化。
- ・キャリア開発支援企業会を新設し、学生のキャリア開発を産学協働で支援する体制の整備とともに、全学共通のキャリア開発科目(低学年対象)等の検討を行う。
- ・R4年4月の改組によってキャリアオーナーシップ課を新設し、リカレント・リスキル教育プログラムの拡大を担う。



有給インターンシップ案内

【取組⑤】 寄附金その他収入増加に向けた取組

令和2、3年度の取組

- ・産学連携等を中心に、多目的に利用可能な共創空間として飯塚キャンパスにポルト棟を新設。戸畑キャンパスのGYMLABOとも連携することで、一層の教育研究の活性化を図る。
- ・北九州市ふるさと納税において、北九州市内の企業の競争力強化と人材確保に貢献する取組を推進するため「**市内大学支援寄附金**」の項目を設置
- ・「**九州工業大学産学官連携推進会**」(再掲)を新設(有料化)し、ネットワークの構築、研究情報の発信等により、地域の産学官連携の動きを更に加速
- ・SDGs課題解決と技術シーズマッチングによるイノベーション創出に産学協働で取り組む「**北九州SDGsイノベーション&アントレプレナーシッププラットフォーム(KIEPS)**」を設立

令和4年度以降の取組

- ・オール九州・沖縄が一体となり、アジアとつながるスタートアップエコシステムの創出を目指すプラットフォームとして**PARKS**を設立し、科学技術振興機構(JST)の大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援プログラムに採択される。このPARKSにはSCORE事業で推進した福岡市を拠点としたGAPNEXTと北九州市を拠点としたKIEPSがひとつのチームとして参画している。
- ・北九州市と企業版のふるさと納税プログラムを実装することを企画し、個人のみではなく、企業からの寄附金収入の増加を目指す。
- ・北九州市との共同事業(IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発)の成果を基に、本格事業化に取り組むことで、知財関連収入の増収を図る。
- ・両キャンパスでの産学共創空間の開設に伴い、デジタルサイネージなど企業からの広告収入を得る仕組みを新設

令和2年度 自己評価	令和3年度 自己評価
○	○



ポルト棟



PARKS

Platform for All Regions of
Kyushu & Okinawa
for Startup-ecosystem

PARKS

3. 交付金の活用状況



令和2年度 交付金額: 2億円
令和3年度 交付金額: 1億円

目的	交付年度	用途	金額 (単位: 億円)	期待される効果
産学連携拡張のための環境整備	R2	未来思考型研究施設再整備 運用計画作成等業務委託	2.0	<p>本学の持つ、知識・技術・設備を有機的に結びつける 交わりの形成拠点として、産学官一体となった共創活動を実現することに加え、多様な学生や研究者を受け 入れる教育研究環境の構築、地域、産業界との連携強化を推進とした3つの視点を展開しながら機能強化 する。</p>
	R3	未来思考型研究施設再整備	0.6	
新たな包括的共同 研究スキームの確立	R2	AIを活用したニーズシーズ マッチングシステムの開発	0	<p>セキュアなシステムに、全国の研究者情報を格納し、 企業が使用する言葉で問いを発すると、全国の大学から 共同研究候補者が抽出される仕組み。共同研究に 係るマッチングを包括的に行うことが可能になること に加え、組織的に進捗を管理・評価することで研究成果を 保証し、企業からの信頼を得て、投資を呼び込む体制 を構築することを可能とする。加えて、全国的な展開に よって複数の大学との連携を可能とすることで大規模 な産学連携を可能とすることに加え、他企業との連携 にも活用することで、複数社への展開を見込む。</p>
	R3		0.4	

<民間資金獲得計画>

令和3年度フォローアップ調書提出時

(単位:億円)

費目名	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 計画	令和4年度 計画	増加額 令和4-令和元
民間からの受託・共同研究収入	9.7	7.7	10.1	14.7	5.0
機器使用料等収入	0.5	0.4	0.7	1.2	0.7
教育関連収入	0.3	0.4	0.5	0.7	0.4
寄附金その他収入	4.1	1.5	2.0	2.5	△1.6
民間資金獲得額(全体)	14.6	9.9	13.3	19.1	4.5



実績及び変更後の計画

(単位:億円)

費目名	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 計画	増加額 令和4-令和元
民間からの受託・共同研究収入	9.7	7.7	<u>7.4</u>	<u>14.7</u>	5.0
機器使用料等収入	0.5	0.4	<u>0.9</u>	<u>1.2</u>	0.7
教育関連収入	0.3	0.4	0.4	0.7	0.4
寄附金その他収入	4.1	1.5	1.6	2.5	△1.6
民間資金獲得額(全体)	14.6	9.9	<u>10.3</u>	<u>19.1</u>	4.5

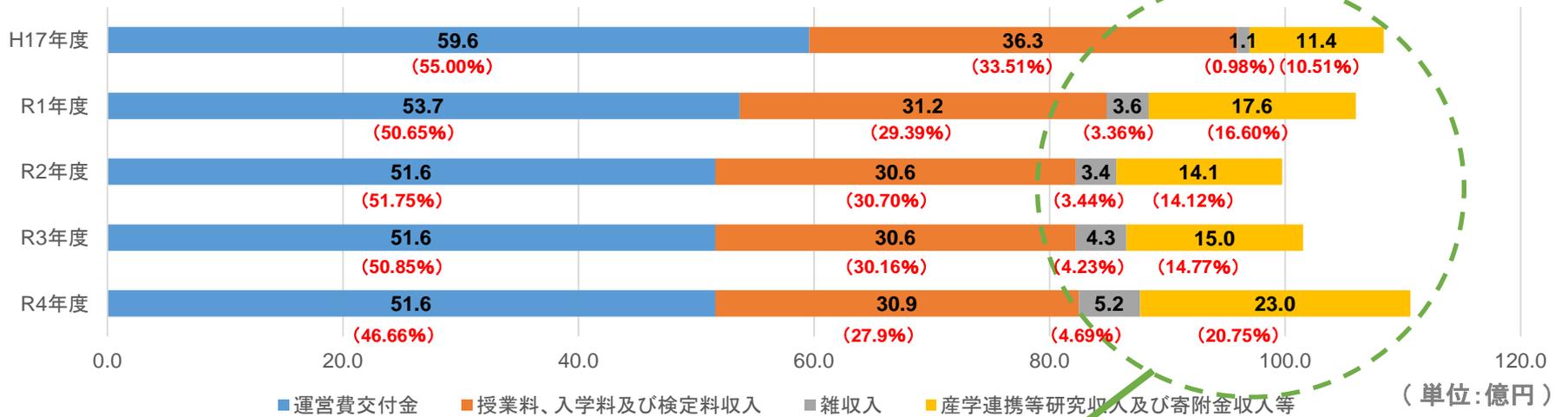
「民間からの受託・共同研究収入」について	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 計画	増加額 令和4-令和元
総額	9.7	7.7	7.4	14.7	5.0
直接経費	8.1	6.2	5.8	11.8	3.7
間接経費	1.6	1.5	1.6	2.9	1.3

4. 大学収入の状況

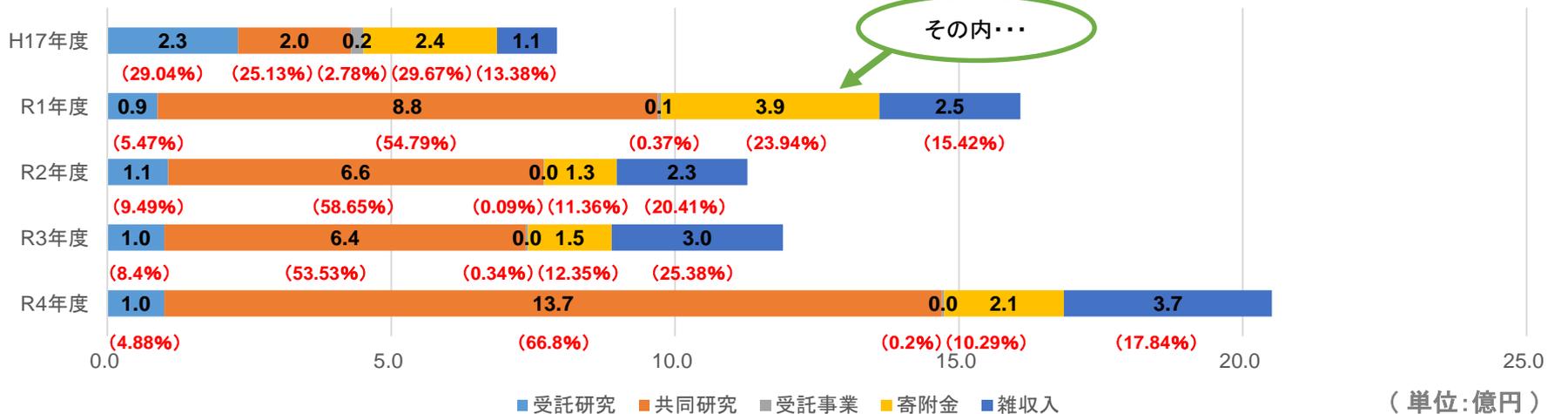


＜実績及び変更後計画に基づく大学収入の見込み＞

九州工業大学の収入の推移(H17→R4年度)



九州工業大学外部資金収入の推移(H17→R4年度)



背景

- ・本学では、これまでLearning Complex（複合的な学習環境・多様な学習機会の創出）として、多様なものから成るキャンパス（X on Campus）と多様な場所がキャンパスとして機能する（Campus on X）を形成していく教育を推進しその整備を行ってきた。
- ・また産学連携においても、本学教員と企業等の研究者が対等な立場で研究組織を運営し、産学共通課題の解決を目的とした共同研究講座の設置を開始し、共同研究契約件数の増加など産学連携への貢献も果たしている。

現状・課題

交流機会の不足

- ・他領域、他学科、他研究室との交流がない

アピール力が弱い

- ・全学の研究取り組みにアクセスできない

施設・機能の不足

- ・企業や外部の人とミーティングできる場所がない

活用できていない設備

- ・学内設備が統一的に管理されていない

短期的な産学連携

共同研究の約5割が短期・小規模プロジェクト



目指す姿

交流機会の創出

- ・コワーキングスペースによる交流促進。（コーディネータの配置）

大学サイズにアクセスできる拠点化

- ・デジタルサイネージ等を活用した技術展示場の整備

フレキシブルに活用できるスペース

- ・セキュアからオープンスペースまで多様なミーティングスペースの整備

学内設備のリスト化と共用・共創の仕組みづくり

- ・（案）各研究室の設備を活用した試作&評価サイクル事業の実施
⇒ハードウェアを軸としたインキュベーションプログラムの運営

組織対組織の互恵的包括連携の構築

単発の産学連携から組織的な共同研究（共同研究講座等）への発展
インターンシップ型アルバイトなどによる学生のスキルの活用。

「イノベーション・コモンズ」の創出へ

- ① あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレイヤーが共に創造活動を展開（「共創」）できる空間
- ② キャンパス全体が有機的に連携し、ソフト・ハードが一体となった「共創の場」
- ③ 教育研究の高度化・多様化・国際化、地域・産業界との連携・協力の推進に貢献する

大学キャンパス内での位置付け

※【赤】GYM LABOで創出 【青】GYMLABOにより強化 【緑】キャンパス全体で整備していく



アクティブラーニング



集中して学修できるスペース



ICTによるコミュニケーション

イノベーション コモンズ構想 【戸畑】



国際交流



飲食可能な
ミーティングスペース

研究室・学科の枠を超えた
コラボレーションを生むオープンスペース

企業や他大学とのオープンラボ

屋外の交流空間

実験施設



地域に開かれたキャンパス

地域への公開講座

ソフト



共同研究講座等

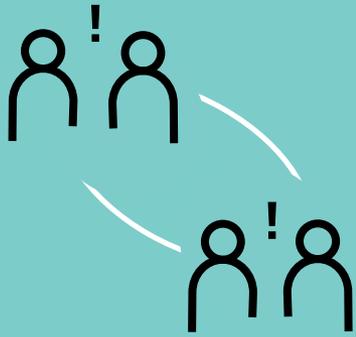
産学官連携推進会

企業と共同した実証実験

交わりの形成拠点のためのステップ

Step1

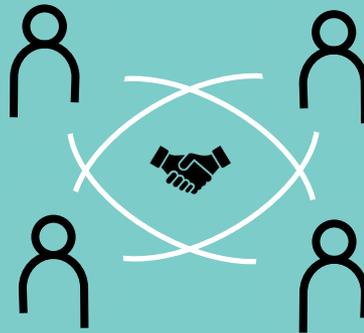
インスピレーション
が交わる



施設設備や、運営スタッフ、各種イベントの実施を通じて、人とその人の思いからくるインスピレーションが交わる機会を生み出します。

Step2

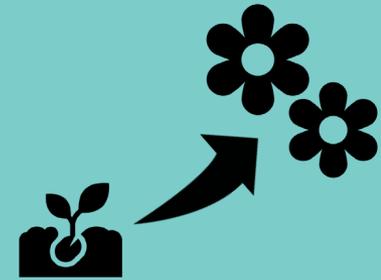
関わりが交わる



単発的 / 刹那的な関わりではなく、持続的に関わりを産み出すために、さらにその関わりが交わりだす為に、オンラインツールも駆使しながら機会を生み出します。

Step3

共創ゴトが交わる

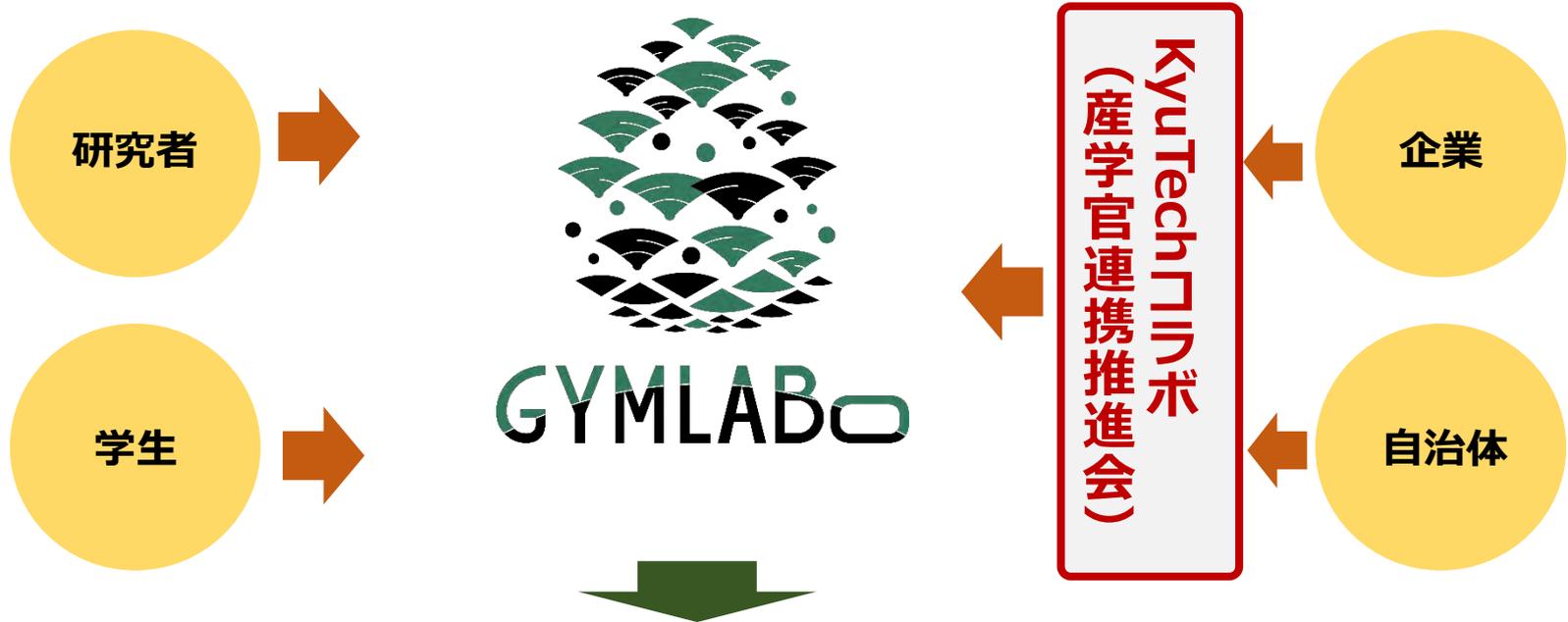


個と個の共創から、チームとチームの共創へ背中を押すサービスの提供や学内の既存の取り組みとの連動を仕掛けます。

完成図



KyuTechコラボ（産学官連携推進会）



多様な交わりの創出

柔軟な発想の交わり

大学の資源を活用した
技術開発/次世代を担う
人材との交わり

能動的な学びの経験
多様な人材との交わり

地域課題の解決
地域への思いの交わり

イノベーション commons の形成へ

当初計画していたテクノロジーマッチングシート(TMシート)

< 構想 >

- ・企業ニーズを縦軸、大学シーズを横軸に取り、ニーズがあり大学に強みがある分野を見える化
- ・包括協定を締結し、企業の技術ロードマップ等を共有することで、TMシートの完成を目指す
- ・マッチする分野で、共同研究を検討すると共に、必要な分野に大学のリソースを集中投下することで強みを強化

< 課題 >

- ・マッチング作業が人の手を介するため、広範囲のマッチング作業では、企業情報の機密性保持が難しい
- ・企業と大学とで使用する言葉の違いにより、常に最新版の翻訳辞書が必要になる。



取組のアップグレード

AIを活用したニーズ・シーズマッチングシステムの開発

< 構想 >

- ・人の手を介することなく、AIがニーズとシーズのマッチングを図る

⇒ 企業情報の機密性保持、安心して使用できるシステム

- ・論文データなどの公開データや、科研データなど入手が容易なものだけをAIに学習させる

⇒ 低コストでのシステム維持、他大学への展開の可能性

< 第1フェーズ >

- ・実際に行われた技術相談や共同研究を題材に、質問や研究テーマから、担当した研究者を探し当てるAIを開発
- ・正解率70%を目標としていたところ、納品時(2021年7月)には85%を達成

< 第2フェーズ >

- ・AIに英語論文を学習させたほか協定を結んでいる複数の国立大学から研究者データを提供頂き、複数大学、複数分野を対象に検索可能なシステムへと改良



2022年7月より運用を開始



IQUESTECH

?に、はじまり。



AIを用いた企業ニーズと大学シーズのマッチング支援システム

要件

入力文章を解析し、関連する研究をしている研究者を探索すること

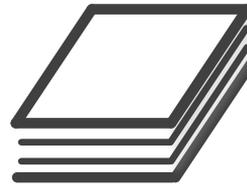
条件

研究者の探索には公開データのみを使用すること

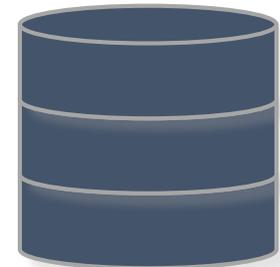
シーズ集は使用しないこと



特許

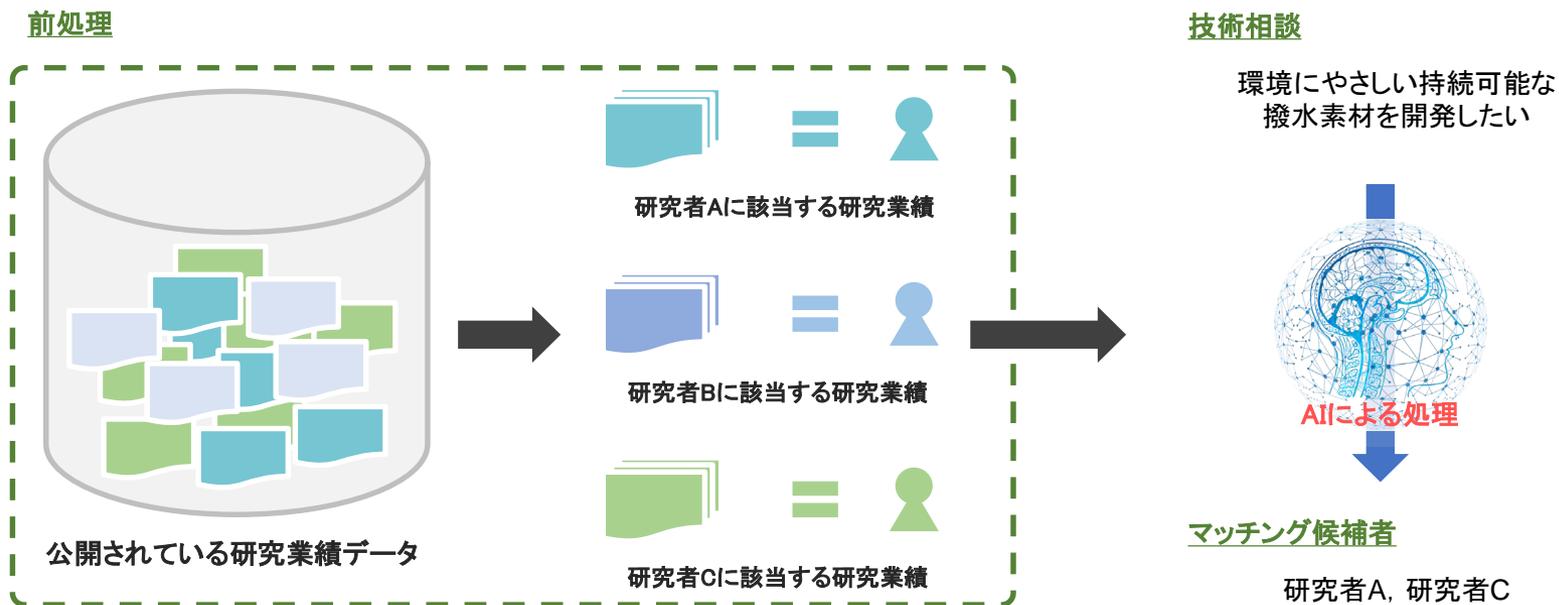


和文・英文論文



教員情報DB

概念図



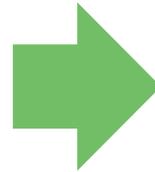
開発状況

<第1フェーズ>

開発期間: 2021年4月～7月

データ : 科研, 特許, 教員情報DB
学術論文(和文)

正解率: 85%



<第2フェーズ>

開発期間: 2021年11月～2022年3月

データ : 科研, 特許, 教員情報DB
学術論文(和文, 英文)

正解率: 83%

※正解率とは...

「過去の共同研究テーマを入力して研究者を探索した際、
実際の共同研究者が上位5名までに探索された割合」

探索大学の拡大

九州工業大学の研究者しか探索できない



複数大学を対象に探索できるようなシステムを構築



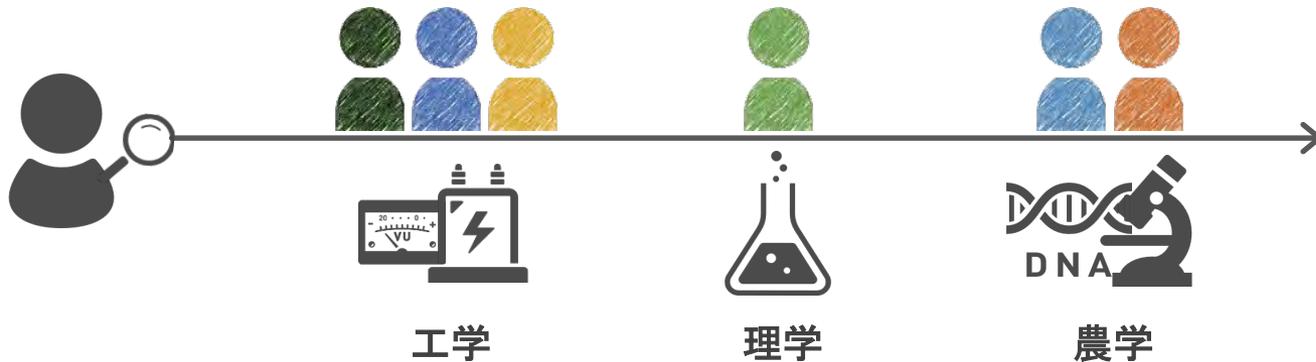
- ・帯広畜産大学
- ・静岡大学
- ・九州工業大学
- ・長崎大学
- ・宮崎大学

探索分野の拡大

工学系の研究者しか探索できない



複数分野を対象に探索できるようなシステムを構築



探索例①

ニュースなどの文章



入力した文章

探索結果

【相談内容】
今日10日(土)は九州南部を中心に大雨となっています。鹿児島県の川内川の upstream にある鶴田ダム(鹿児島県さつま町)では、防災操作(洪水調節)に使用できるダムの空容量が減少しているため、今後、緊急放流(異常洪水時防災操作)を実施する可能性があることが発表されました。そのため、ダムの下流では放流が行われた場合は水位が上昇するおそれがあります。

【抽出キーワード】
今日10日 九州南部 中心 鹿児島県 川内川 upstream 鶴田ダム 鹿児島県さつま町 防災操作 洪水調節 ダム 空容量 減少 緊急放流 異常洪水時防災操作 ダム 下流 放流 水位 上昇 Southern Kyushu Center Kagoshima Prefecture Kawauchi River Upstream Flood control Dams Decrease Decrease Dams downstream Discharge Water level Ascending

絞り込み

- 大学名
- 帯広畜産大学
- 静岡大学
- 九州工業大学
- 長崎大学
- 宮崎大学

あなたにおすすめの研究者 検索結果: 10 件 全選択

糠澤 桂 (ヌカザワ ケイ) NUKAZAWA Kei スコア: 1 【大学名】 宮崎大学 【所属】 工学科土木環境工学プログラム 担当 【研究キーワード】	鈴木 祥広 (スズキ ヨシヒロ) SUZUKI Yoshihiro スコア: 1 【大学名】 宮崎大学 【所属】 工学科土木環境工学プログラム 担当 【研究キーワード】	重枝 未玲 (シゲエダ ミレイ) SHIGE-EDA Mirei スコア: 0.8 【大学名】 九州工業大学 【所属】 建設社会工学研究系 【研究キーワード】 水工水理学, 河川工学, ダム・湖沼工	鬼束 幸樹 (オニツカ コウキ) ONITSUKA Kouki スコア: 0.79 【大学名】 九州工業大学 【所属】 建設社会工学研究系 【研究キーワード】 開水路流, 生息環境評価, 乱流, 魚
---	---	--	--

自動で抽出された
キーワード(AI目線)

最適な人(スコア=1)から
順に10人を表示

ニュースの内容についてのコメントータを探す際、
関係しそうな研究者を大学横断的に探索することが可能
(この例の場合, 土木工学系の研究者)

探索例②

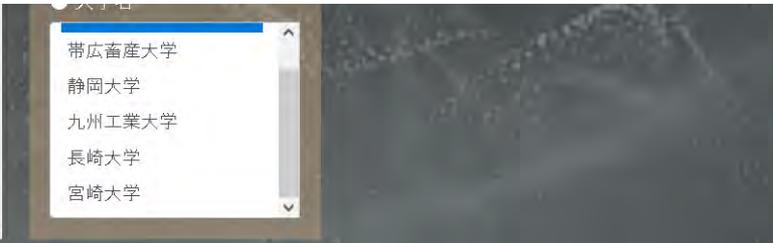


ニュースなどの文章

探索結果



【相談内容】
 光触媒は新型コロナウイルスにも効果はあるのか。今年に入ってある実証結果を奈良県立医科大学がまとめた。光触媒フィルターが「新型コロナウイルスを不活化（抑制）することを確認した」（同大）と発表した。
【抽出キーワード】
 光触媒 新型コロナウイルス。今年 実証結果 奈良県立医科大学 光触媒フィルター 新型コロナウイルス 活化 抑制 同大 Photocatalyst New coronavirus Nara Medical University New coronavirus activation activation Inhibition



あなたにおすすめの研究者

検索結果：10 件

全選択

<p>横山直明 (ヨコヤマナオアキ) YokoyamaNaoaki</p> <p>スコア：1</p> <p>【大学名】 帯広畜産大学</p> <p>【所属】 原虫病研究センター</p> <p>【研究キーワード】 国際獣疫事務局 薬剤 コクシジウム ネオスガラバベシア 原虫 マダニ 疫学調査 ワクチン タイレリア トキソプラズマ 診</p> <p>ウイルス関係の研究者 (帯広畜産大学)</p>	<p>横野 照尚 (オウノテルヒサ) OHNO Teruhisa</p> <p>スコア：0.98</p> <p>【大学名】 九州工業大学</p> <p>【所属】 物質工学研究系</p> <p>【研究キーワード】 光触媒、二酸化チタン、可視光応答化、酸化チタンナノチューブ、カーボンナノチューブ、熱電素子、エネルギー変</p> <p>光触媒の研究者 (九州工業大学)</p>	<p>井上昇 (イノウエノボル) InoueNoboru</p> <p>スコア：0.97</p> <p>【大学名】 帯広畜産大学</p> <p>【所属】 その他部局等</p> <p>【研究キーワード】 原虫・媒介昆虫相互作用 診断法 ツエツエバエ アフリカトリパノソーマ (P) を利用して ます Copyright © 2011 IQUESTECH, Inc. All Rights Reserved. (プロフィール)</p> <p>ウイルス関係の研究者 (帯広畜産大学)</p>	<p>小川晴子 (オガワハルコ) OgawaHaruko</p> <p>スコア：0.95</p> <p>【大学名】 帯広畜産大学</p> <p>【所属】 獣医学研究部門</p> <p>【研究キーワード】 移植免疫 感染防御 ワクチン 感染予防</p> <p>ウイルス関係の研究者 (帯広畜産大学)</p>
--	---	---	---

「光触媒の新型コロナウイルスへの有効性」に関する相談があった場合、どの研究者が連携すれば対応可能か、大学・分野横断的に探索することが可能